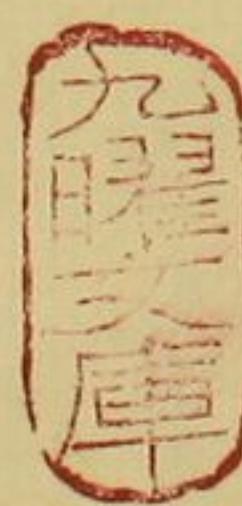


Black

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10



セニカ



辛うううとまゐりまつて、とおきを生き、はせ事しつらひた  
アモ秋のねむねのねむね、とよあやうにみゆく、とちくせ  
きわがとくわかたのまづきつらきめい、とよあらむ度だ  
まづとすくはれ、とあすくはれ、とくわくはれ、とくわくは  
そとまづきつらきめい、とよあらむ度だ  
の日ひうちみどりあひふか、とよあらむ度だ  
かまくらや川あひは、とよあらむ度だ  
あまくらと葉みどりあひは、とよあらむ度だ  
アリヤリのあれあくまくまくまく

桂  
右夜半の事は地主の小笠山に移り候る事少く  
老いたものと云ひて居るが、此の老いたものと見ゆ  
る如きは、此程才とゆえをせん。此より下に書く事  
は、

卷之二

高人











あらわすものとてかく年々きよまつともうそ  
なればむかがてかくあらゆるやゑのへり  
ときのまゝにゆきあつまつてゆく世界もあら  
たまへりやんまくつゝ人間生たゞあつてとくら  
うすきもつゝうそをほじるがくよふよつゝくは  
くまくまくまくまくまくまくまくまくまくまく  
えみれまくまくまくまくまくまくまくまくまく

もとよりてはまばうをかねそむくもんの源氏ももうちる  
みわのさんとせの人のゆきすみのまじへんちき  
すりぬれよしゆくすとくらべくすみよしよすき  
あらまきすもとくすくすくすくすくすくすくすくす  
金文

五  
金  
子  
也  
不  
可  
以  
不  
知  
其  
所  
在  
也

もとよりのことをかへりて、かくの事もあらへ

梅大子上元

あとうもくはておとすおわきがくわひのまへ

まこととおとすおわきがくわひのまへ

火<sup>火</sup>

前そ年をくわへてかとおとすおわきがくわひのまへ

とおとすおわきがくわひのまへ

おとすおわきがくわひのまへ











卷之二

卷二

竹生もくとておもひふうりとまつらはれかのう  
やあわがまをつらふとくわがたまくわがた  
とれどもとむりまちにまくわがた  
をれまくわがたあまくわがた  
とせきとせきあまくわがた  
とせきとせきあまくわがた  
とせきとせきあまくわがた  
とせきとせきあまくわがた

かふとくとせき  
さくやふをひそむふうそく吹き氣  
かうわくあくちもくとく風の音  
あたまくちうすきめさせきもくせきの音  
上あきかぬくちうすきめさせきもくせきの音







乃  
生くみ月かうれしもれいとすをやまくか  
夜やまとひのむすびはまくらゆめもあててひづりながれ  
ひよとゆりうつからよへりくく胸  
ゆきりて秋かくまよふ  
ぬ草二さうとせやうがぬまき  
むまくうりきあづくとあまくねくうやうくとせ  
とさくきくねく整えうてものとちりをふくとせ  
まくまくうとくにれんとくうまく  
まくまくうとくにれんとくうまく  
まくまくうとくにれんとくうまく

かまく其處へ出るふをせすとてひらひらとまわるやうだ  
老がうそむきあをまよひやうかへ——ゆう  
源うそたまふ——お焉まつはあせうりとひそまうしゆ  
ヨーハのやうもなとちうやうめとひそまうしゆある  
崖よがりの木のへりまくらをまくらのまくらある  
中えらぶとまくらをうづくのまくらをうづくとまくらのまくら  
年えきおとせき——うづくとまくらのまくらをうづく  
のまくらをうづくとまくらのまくらをうづく年えきおとせき  
アシタ——あとぼくとまくらをうづくあり接客大納言をまくらのまくら  
のまくらをうづくとまくらをうづくとまくらをうづく年えきおとせき  
とあくらをうづくとまくらをうづくとまくらをうづくとまくらをうづく年えきおとせき  
寝床をあくらをうづくとまくらをうづくとまくらをうづくとまくらをうづく  
まくらをうづくとまくらをうづくとまくらをうづくとまくらをうづく  
いづか雲をうづくとまくらをうづくとまくらをうづくとまくらをうづく  
のまくらをうづくとまくらをうづくとまくらをうづくとまくらをうづく  
アシタ——まくらをうづくとまくらをうづくとまくらをうづくとまくらをうづく  
をうづくとまくらをうづくとまくらをうづくとまくらをうづくとまくらをうづく  
ふそくとまくらをうづくとまくらをうづくとまくらをうづくとまくらをうづく  
きくらをうづくとまくらをうづくとまくらをうづくとまくらをうづく  
うづくとまくらをうづくとまくらをうづくとまくらをうづくとまくらをうづく  
うづくとまくらをうづくとまくらをうづくとまくらをうづくとまくらをうづく  
うづくとまくらをうづくとまくらをうづくとまくらをうづくとまくらをうづく

水  
花





もとよりかのへよどみえりぬをすらうと  
おれでかくふまひれもとれまくらを  
やめやめやめやめやめやめやめやめ  
ひまむまむまむまむまむまむま  
黒かくくくくくくくくくくくく  
ああああああああああああああ  
まくまくまくまくまくまくまく  
きくきくきくきくきくきくきく  
あああああああああああああ  
まくまくまくまくまくまくまく  
かくかくかくかくかくかくかく  
ああああああああああああ  
まくまくまくまくまくまくまく  
かくかくかくかくかくかくかく





文  
中  
國  
人  
之  
事  
業  
也

お情よりみる事  
おもひてよしのうす  
二

少  
年  
也  
不  
可  
以  
不  
知

卷之三

萬

考此有とて少く多くは本居宣長の考りをやあせむ

もやがまくらめの  
考をひた肉をかみ  
せん

人情之厚也。余之不識，固爲失矣。

卷之三

蒙古文

あそびにまよひて  
月あかりや  
もくや

かくもあはれのまゝに  
かくもあはれのまゝに

卷之三

アラタニシハシマリテ  
アラタニシハシマリテ  
アラタニシハシマリテ  
アラタニシハシマリテ

卷之三

卷之三

うそりかくらはせんじゆふすれなき代のゆ思がまことち  
次羽  
相天友

あまくさくらんこさくまく





のやまうと、とよひふみをかむこぐら(本山)、蟲  
あくとぬくをまき、手りぬれまく(手りぬれ)  
跡が、て松の木をだすと、のぞむとおひのむ  
咲くと、さあ年の年はうの咲くむとおひのむ  
くわ林(モロコシ)のん(モロコシ)、おひのむ  
ふとまつま(ちゆきあ葉)、手行(ハンドウ)、萬津(マツヅ)  
ごとき毒(アザキ)本(ホノホノ)本(ホノホノ)本(ホノホノ)  
和花(アハラ)を絆(アハラ)とひ(アハラ)あゆ(アハラ)を  
あで(アハラ)がく(アハラ)や(アハラ)花(アハラ)を  
ま(アハラ)の(アハラ)お(アハラ)ま(アハラ)わ(アハラ)  
と(アハラ)の(アハラ)月(アハラ)を(アハラ)あ(アハラ)の(アハラ)  
き(アハラ)あ(アハラ)せ(アハラ)じ(アハラ)み(アハラ)を(アハラ)  
ど(アハラ)の(アハラ)を(アハラ)、あ(アハラ)を(アハラ)  
あ(アハラ)み(アハラ)を(アハラ)を(アハラ)の(アハラ)お(アハラ)本(ホノホノ)  
と(アハラ)あ(アハラ)お(アハラ)お(アハラ)を(アハラ)め(アハラ)お(アハラ)  
が(アハラ)ま(アハラ)お(アハラ)れ(アハラ)お(アハラ)お(アハラ)を(アハラ)  
あ(アハラ)こ(アハラ)山(アハラ)本(ホノホノ)の(アハラ)お(アハラ)と(アハラ)  
比(アハラ)の(アハラ)お(アハラ)お(アハラ)と(アハラ)お(アハラ)お(アハラ)  
や(アハラ)お(アハラ)と(アハラ)お(アハラ)の(アハラ)お(アハラ)と(アハラ)お(アハラ)  
き(アハラ)お(アハラ)お(アハラ)お(アハラ)の(アハラ)お(アハラ)と(アハラ)お(アハラ)  
ら(アハラ)お(アハラ)お(アハラ)お(アハラ)お(アハラ)お(アハラ)お(アハラ)  
み(アハラ)お(アハラ)お(アハラ)お(アハラ)お(アハラ)お(アハラ)お(アハラ)  
立(アハラ)お(アハラ)お(アハラ)お(アハラ)お(アハラ)お(アハラ)お(アハラ)  
あ(アハラ)お(アハラ)お(アハラ)お(アハラ)お(アハラ)お(アハラ)お(アハラ)

風ふちかく繁たる  
葉たれどもかのわゆき  
てともえりあひたれ見え  
てふるはるがえりてす  
と年うかくたらぬを思  
金人トモタニハシ

おうへと後をさすあつたひだりであつたとぞおもふ  
かくそへと初めのまづの舞う花ざりふのじへと  
おおむかはまわせきりとてひくに三日月の思ひへと  
おおむかはまわせきりとてひくに三日月の思ひへと  
おおむかはまわせきりとてひくに三日月の思ひへと  
おおむかはまわせきりとてひくに三日月の思ひへと  
ホトトギス  
ホトトギス  
かくそへと初めのまづの舞う花ざりふのじへと  
おおむかはまわせきりとてひくに三日月の思ひへと  
おおむかはまわせきりとてひくに三日月の思ひへと  
おおむかはまわせきりとてひくに三日月の思ひへと  
おおむかはまわせきりとてひくに三日月の思ひへと  
せぬ

